教育課程実践モデル事業　EAST 通信　第２号（H29. 9. 20）　松江東高等学校

教育課程実践モデル事業にともなう８月２０日の森本教諭による研究授業は、ジグソーによる協調学習を取り入れた古典の授業であった。この協調学習を提案され啓蒙されていたのが、故三宅なほみ氏である。その最初の頃にあたる６年前、たまたま参加した全国教育研究所連盟カリキュラム協議会（埼玉大会）で、当時大学教育支援コンソーシアム推進機構の副機構長であった三宅氏の講演を聞く機会があった。この講演をうけ、グループ協議では、ジグソーを取り入れ、様々な観点（エキスパート）から教師力・授業力（ジグソー）を考える企画があった。

「学びのゴールの刷新に向けて」と題したその講演の要旨は次のとおりであった。

全員が同じことができるではだめである。人はそれぞれ違うのだから、それぞれが修正していく力を持っていないといけない。そのためにも、他人との相互作用を通して自分の考えを少しずつ向上させる「知識の社会的構成能力」をつけていかないといけない。多くの授業が、一人一人の学び方に多様性があるのに、学習過程に多様性がないものが多い。このため、誰かが先に（答えに）到達すると意欲がなくなる。学んだことを統合しないと、知識のぶつ切りにしかならず、活用や表現ができないし、納得できなくでも気にならず学習意欲は喚起されない。2015 年の PISA では、ICT 活用や協調的問題解決能力が対象となる予定。つまり 21 世紀の学びのゴールである次の３つをどうやって育成し評価していかが課題である。

①コミュニケーション能力（伝えたいことをつくりだす）

②コラボレーション能力（話し合って考えを少しずつよくできる）

③イノベーション能力（違う考えを統合して試してみる）

この命題に応えるのが協調学習である。「問いを準備→必要な部品ＡＢＣを分担して解明（エキスパート活動）→統合したら答えを出す（ジグソー活動・クロストーク）」。人はわかってくると疑問（質問）が生まれてくる。授業時間の 45 分ではっきりわかるゴールを決めて授業することが大切である。

なお、この大会の基調講演をされた当時の国立教育政策研究所長の徳永保氏による「グローバル社会を生きる力をどう育むか」と題した講演も参考になったのでその要旨を紹介したい。

企業が売り上げの大半を海外に求める時代であり、そのため各国の間でグローバルな人材の育成競争がおこなわれている。評価の共通化もすすんでおり、米の飛行機メーカーではグローバル共通評価をすでに導入している。国際バカロレア資格もこうした流れの一つである。また、米の大学は実践的な内容が多く、大学でどれだけのスキルを身につけたかが就職での採用基準となっている。一昔前は、日本の労働力の質の高さをスキルでなく学歴や勤勉性に求めていたが、実は若年人口が多く、玉石混淆でもやっていける時代であった。今は、国内に就職しても海外で働くのがあたりまえの時代であり、少子化の中でそれに耐えうるグローバルな人材の育成が求められている。こうした情勢の中で、日本の子ども達の表現力はあがってきているが、子どもが少なく、まわりの大人が様子を気遣ってくれるので、実際のコミュニケーション力や自己決定力が低下しているのが現状である（例．お腹が痛いから保健室に行くと言わなくても、顔色見て大丈夫？保健室行きなさいと言ってもらえる）。またこれに加えて子どものリアリティ（実体験）不足も関係し、就職活動で一番重要視される論理的思考力やコミュニケーション力がないことを露呈する学生が多くなっている。こうした状況の解決方法に一つとして、学習科学の定着がある。学校で、パソコンの文字を見せるのではなく、自筆の文字でプリントを配ることで、ミラーニューロンが刺激されることがある。ミラーニューロンとは、「他人の考えていることがわかったり、他人と同じ気持ちにさせたりする」脳内細胞のことである。ヘテロジニアス（異質なもの）を意識し提示することで、教育の本質である「まねぶ（真似る）＝学ぶ」ができるようになるのである。こうした学習科学がこれからは重要となる。学習科学は、認知心理学や脳科学の知見を基礎にしつつ、効率的な学習のあり方などを研究する学問である一方で、学習者の主体的な取り組みを重視するものである。教育学部では、この学習科学の考えがまだ本格的に反映されていないのが実情である。これからはこうした学習科学の面の意識がこれまで以上に教育現場で求められている。

（次ページ：当日のアンケート集計および主な感想等）

平成２９度　教職員研修会（8/24:国語）事後アンケート集計

平成29年8月24日　実施

回答者数 36 人

①研究授業（1年11R：森本先生の古典授業）について

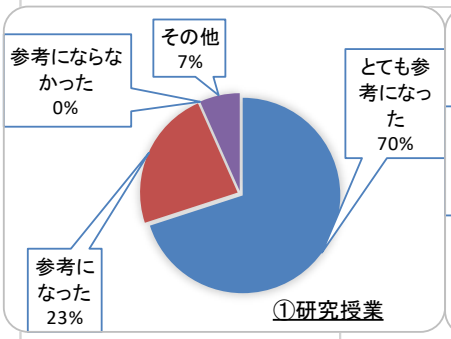
とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	その他
21	7	0	2

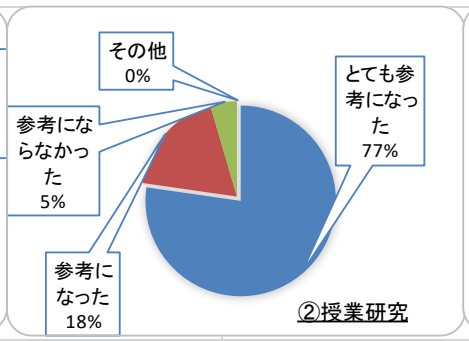
②授業研究（グループワーク）について

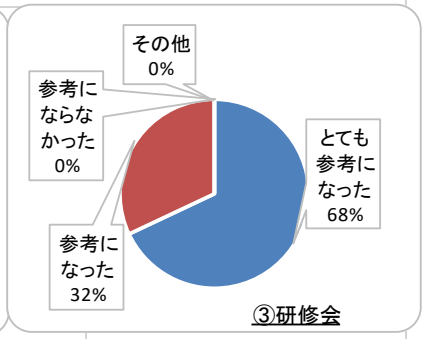
とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	その他
17	4	1	0

③研修会（高旗先生の講演）について

とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	その他
17	8	0	0







【主なコメント】※紙面の都合で抜粋しています。

1）・教師のねらいがよく生徒に伝わっていました。素直に言葉に表現できる生徒が中心となり、対話をしながらシートに書き込むことで理解の深まりを実感できている様子がうかがえました。・準備は大変だったと思います。一部ですが、聞いて書き写すにとどまる生徒がいました。本時のような取り組みが様々な科目で行われることで、生徒が次第に慣れて発言できるようになることを期待します。

・どのような問いを用意するのか、それに対して生徒はどのような準備をし議論をするのかなど、いろいろと参考にさせていただきたいと思いました。

2）・大学の先生方に参加していただけたことで、長期的・俯瞰的な視点からのご意見がいただけました。

・授業者以外の高等学校の教員の方々の率直な意見を、複数お聞きすることができた。

・論点を絞ったことで、他グループの意見もわかりやすかった。また、講評がとても参考になった。

3）・「防衛的風土」をつくることで厳格な雰囲気を作り出すこれまでの授業スタイル・概念を改めなければならないと反省させられた。

・授業の中で「支持的風土」を作り、生徒を「自ら学習する主体」に育てることが大切であると教えていただきました。本校の授業の在り方にも当てはまる示唆に富んだお話でした。

・普段抱えている漠然とした思い（教員の良心的な不安感・生徒が感じているであろう不当な劣等感）などを説明していただいたような気がして、納得がいきました。

4）・研修会が少し短かった。50分あってもよかったと思います。いろいろとお世話になりました。

・森本先生の授業を通して、支持的風土を構成し、わかったふりをする学習から、わからないから始まる学習へ転換を進めておられる様子が、よくわかりました。松江東高全体に、あの空気感が広がっていくことに期待しております。ありがとうございました。

・研究授業の教室が狭く、参観された先生方も見にくいし、主体である生徒もやりづらかったと思われる。

・国文学会の地区理事会とセットでの開催ということで、他校からも多くの先生方が参加しておられたのは大変良かったです。ぜひ今後も松江東高校での実践内容、研究成果を県内の多くの学校、先生方に広めていただけると喜びます。今後ともよろしくお願いいたします。

・普段の授業の進め方、発問の仕方等、参考になることが多かったです。アクティブラーニングの説明も大変に参考になりました。

【振り返り・まとめ】

①研究授業について：教育課程実践モデル事業の第1回目として森本先生に先陣を切っていただいた。国語授業への取り組みを題材として、生徒の主体的・能動的学習について考察するよい機会となった。

②授業研究について：ワークショップによる意見交換で一層学びが深められた。大学の先生方にグループ内の助言者的な役割をしていただいたことや、最後の講評で高旗先生にまとめていただいたこともよかった。

③研修会について：高旗先生の講義により、主体的・協同的学習について学びを深め、今後の教育活動に示唆を得た。なお、校内事情で設定時間（40分）を短くしたが、やはり1時間程度は確保したかった。